

# トルクメン通信 第8号

2017年8月1日作成

みなさん、こんにちは。前回の発行から大分時間が空いてしまいました。この期間中、授業はもちろん、大学・学校巡回、日本語イベントへの参加、教科書作成、トルクメニスタン国内のスピーチ大会、キルギスで行われた中央アジア日本語弁論大会の参加・引率などなどがあり、昨年この時期同様、せわしない日々を過ごしていました。

アザディ大学では日本語教授法の授業を行うという新しい経験ができました。2016年9月から日本語教育が本格的に開始したことから、トルクメニスタン国内で唯一日本語学科があるアザディ大学では、教員養成がこれまで以上に重要になってきました。なので、今学期は3、4年生に対し「日本語の先生になること」を念頭に置いた授業を行うことにしました。日本語力があまり十分ではない学生に対して



自分にとっても、収穫が多い授業でした。授業の様子についてはまた稿を改めてご紹介します。トルクメニスタン国内のスピーチ大会では、12名の学生が参加し、日頃の学習の成果を披露しました。今回のスピーチ大会は2年生の参加者が多く、途中でスピーチが飛んでしまったり、最後まで発表できなかったりといったこともありました。今年も学生の「顔」

が見えるスピーチを聞くことができ、楽しかったです。1位が2年生のナグマツトくん、2位が4年生のナジクさん、3位が4年生のゴーヘルさんでした。ナグマツトくんとナジクさんはキルギスで開催された日本語弁論大会に参加しました。残念ながら入賞は出来ませんでしたが、中央アジアの日本語学習者をつながりを作ることができたり、日本語でたくさん話すことができたりと、トルクメニスタンではなかなかできない体験ができたようです（ナジクさんなんかはスピーチ大会よりも買い物の方が重要だったようですが笑）。トルクメニスタン国外に渡航する機会が非常に限られている学生にとって、こういった機会は本当に重要なものなのだなどと改めて実感しました。来年度、初等・中等教育機関で使用する2年生と6年生の教科書も残すは最終校正と製本のみです。

いつものように前置きが長くなりましたが、今回のトルクメン通信では、アザディ大学5年生後期の授業の様子と、アザディ大学の卒業式の様子をご紹介します。と思います。

## 5年生後期の授業の様子

今学期後期は5年生「文体論」の授業を担当しました。「文体論」といっても、特に何をするかは決まっておらず…。基本的に授業内容は担当教員に任されており、特に授業名と内容が異なっても問題ありません（笑）。ということで今学期は、「私と日本語」というテーマで少し長めの作文を書くということを目指して授業を行いました。この授業内容にした理由は2つ。1つ目は、5年生は長めの作文を

書いた経験がないので、最終学年でそれにチャレンジしてほしかったから、2つ目は、5年間の日本語学習を振り返り、自分自身にとっての日本語学習の意味を考えてほしかったからです。

後期の最初の授業でカリキュラムを見せながら、「はい、みなさん、後期の授業では『私と日本語』というテーマで少し長い作文を書きます！」と学生に伝えたところ、「(面倒くさそうな顔で) ええ…」「先生、私はなまけものですからできません!」「長い作文はむずかしいです…」という反応が。まあ、そのような反応は想定内でしたので、私は気にせずに淡々と進めていきましたが(笑)。

とはいっても、いきなり「長い作文を書いてください」というのは、彼らにとって酷な話です。なので、まず作文のアイデア出しのために「日本語グラフ」を書いてもらうことにしました。「日本語グラフ」とは、真ん中を「0」、それより上を「+ (よい)」、下を「- (わるい)」とし、日本語に対する感情を時系列に沿って波線グラフで表し、グラフが下がったところや上がったところになにがあったのか記したものです。最初はグラフをトルクメン語で書いてもらい、その後日本語でグラフを見せながら内容を簡単に説明してもらいました。一人ひとりの感情の形が見えたためか、お互いの感情の上り下がりがわかりやすかったようで、他のクラスメイトのグラフに興味を持っていました。また、下がったところ、上がったところのエピソードを聞きながら5年間のエピソードを全員で振り返る様子も見られました。

次に、その日本語グラフをもとに、作文を書く作業へ。時系列で書くことが一番わかりやすいので、まずはそのように書いてもらいました。その後、クラスメイトの作文を読みコメントをしあう段階へ。クラスメイトの作文を読み、「わたしもそう思った!」「そんなこともあったー!」などとお互いの思い出を共有する姿も見られ、その過程で作文を加筆修正する学生もいました。それらのコメントを踏まえ、1回目の作文を書き直し、書き直した作文を日本の大学生に送り、コメントをもらいました。最初は恥ずかしがっていた学生も、日本の大学生からのコメントを読むと嬉しそうにしていました。それをもとに最終稿を書き上げ、5年間の写真とともに文集にまとめました。



最初は「難しくてできない」と言っていた学生も、A4の紙に2枚ぐらい書くことができ、達成感があったようです。また、作文を書き上げていくプロセスの中でクラスメイトと日本語学習に対する思い出や自分にとっての日本語学習の意味を共有する中で、「ただの学習対象」から「自分にとって大事なもの」「自分を変えたもの」のように日本語(学習)を肯定的に捉えられるようになった学生もいました。

中には自力で書き上げることができなかった学生もいましたし、内容面・形式面で課題がいろいろと見られましたが、とりあえず「文集」という形にすることができて安心しました……。

## アザディ大学卒業式

6月24日にアザディ大学の卒業式が行われました。去年は事情があり見に行けなかったのですが、今年の一部ですが見ることができました。トルクメニスタンの卒業式も日本と同じように厳かな感じで行われるのかなーと思いつつ緊張しながら会場に向かいましたが、人の出入りは激しい、そこら中で写

真を撮っている、式中の談笑、話し声が大きい…と、厳かな雰囲気とは正反対のにぎやかな雰囲気で少々面食らいました（笑）。各言語学科の代表者のスピーチ発表や歌の披露、詩の朗読、卒業式終了後はダンスパーティーなど、プログラムもトルクメニスタンらしく興味深かったです。卒業生は、「UÇURYM（トルクメン語で「はばたく」という意味だそうです）」と書かれたタスキのようなものをかけて卒業式に出席するのですが、それも日本の卒業式ではあまり見られない姿で面白かったです。



そして僕が何より驚いたのが、卒業生の「写真集」。日本では卒業記念にアルバムのようなものを作ると思うのですが、アザディの卒業生は自分専用の「写真集」を作ります。「アルバム」ではありません、「写真集」です（笑）。まず表紙を見て驚いたのですが、その「写真集」の持ち主となる学生をアップで映した写真が載せられていました。中を見ると、もちろんクラス全員で撮った写真もありますが、「木とふれ合う私」「花と戯れる私」「ベンチに優雅に腰を下ろしている私」など、豪華な衣装に身を包み、ヘアスタイルを整え、モデルのような出で立ちで撮影された本人だけの写真も多く収められています。裏表紙も、表紙と違った角度で撮影された学生のアップ写真が…。だから「アルバム」ではな

く「写真集」です（笑）。そういえば、5年生が「卒業式の写真を撮るために公園に行きます」というようなことを言っていた気が。その時は「ん？なんで卒業式の写真を撮りに公園へ??」と思いましたが、写真集を見て妙に納得をしてしまいました（笑）。「アザディ大学の学生はみんなこれを作るんですか？」と学生に確認してみると「はい！」と当たり前のように答えていました（笑）。過去のアザディ大学日本語学科の卒業生にも聞いてみましたが、彼らも専用の「写真集」を作ったのだそうです。まあ、これまでも薄々気づいてはいましたが、トルクメン人の自分に対する自信の強さというか、自己肯定感の強さというか何と書いていいかわかりませんが、僕も自分に対して自信を持たないといけないなど、写真集を見て変に勇気づけられました（笑）。



卒業式が終わると、日本語学科の学生とトルクメン人の先生と一緒に小さなパーティーをしました。その時に、5年生の「文体論」の授業で作った文集を学生にプレゼントしました。文集を渡されると、学生は食い入るように見ていました。中には懐かしく涙を流してしまう学生も。文集の最後には、クラスメイトに対しメッセージを書くページと「みらいのページ」を設けました。「みらいのページ」は、いつかどこかでク

ラスメイト全員が集まった時の写真を撮って入れるなど、卒業後の姿を記録できるように設けました。メッセージを書きながら、卒業や5年間ともに過ごしたクラスメイトとの別れを実感する学生、感慨にふける学生もいました。この文集が彼らの最後の学生時代を彩ることに役立つことができ、文集作成の苦労が一気に吹っ飛びました。またどこかで、みんなと会えるといいな！

今回のトルクメン通信では、アザディ大学5年生の授業の様子と卒業式の様子をご紹介しました。このような節目を迎えると、時間は過ぎているのだなということを実感します。トルクメニスタンに来てもうすぐ2年。これからもいろいろな人といろいろな思い出を作って、このトルクメン通信でご紹介できればと思います。



写真1枚目 自分たちで作ったカルタで遊んでいる様子

写真2枚目 完成した文集

写真3枚目・4枚目 卒業式の様子

写真5枚目 「UÇURYM」というタスキをかけてみました！

写真6枚目 パーティーでの食事

写真7枚目 スイカ・メロンの季節になりました

お店ではこんな感じで無造作に置かれて、売られています笑

写真8枚目 職場近くのレストランでお昼によく食べているプロフ、おいしいです！

写真9枚目 アザディ大学近くで売っているサモサ、三角形のサモサが多い中で、めずらしい形で、しかもおいしい！アザディの先生方もよく食べているようです

国際交流基金日本語指導助手（トルクメニスタン派遣） 上原龍彦  
ご意見、ご感想は [azady.uehara★gmail.com](mailto:azady.uehara★gmail.com) まで（★を@に変えてください）